

畜産安心ブランド生産農場だより

加茂市：船久保牧場 船久保正也 氏

平成18年度、クリーンミルク生産農場に認定され1年ほど経過しました。

安全で美味しい牛乳を消費者に提供するため、「搾れば良い」ではなく、「乳質の良いものを搾る」を心がけ、乳質の管理にはかなり気を使っています。日々の作業は大変ですが、就農前、群馬県での研修時、牛舎環境管理や搾乳技術について勉強し「乳質群馬県最優秀賞」及び「農林水産大臣賞」を受賞したことが、現在のプライドと励みになっています。

品質面では、高乳糖率でコクのある牛乳になるよう餌にこだわっていたのですが、昨年、購入したTMR飼料が牛たちに合わず十分な能力を発揮できませんでした。そこで、TMRミキサー導入、納得のいく牧草購入等、安定生産のため牛群に合うTMR作出に挑戦中です。やはり健康な牛でなければ良い牛乳は生産できないということです！

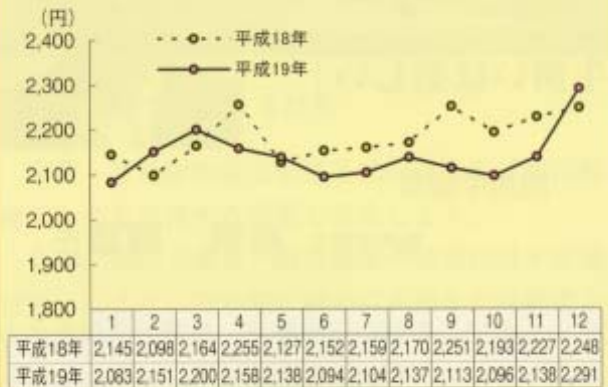
また、牛乳は流通上、酪農家個々の取組が反映されにくくブランド化が難しいのが実情です。クリーンミルク生産農場のグループによるブランド販売ができたらなあ、と強く思うところです。今後も、安全安心生産に心がけ頑張っていきたいと思えます。

ブランド牛乳販売を目指して！

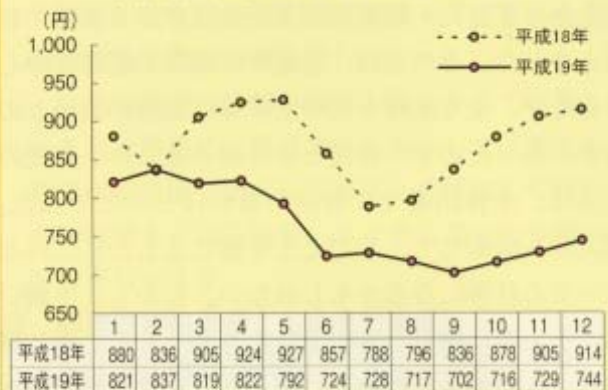


畜産物市況

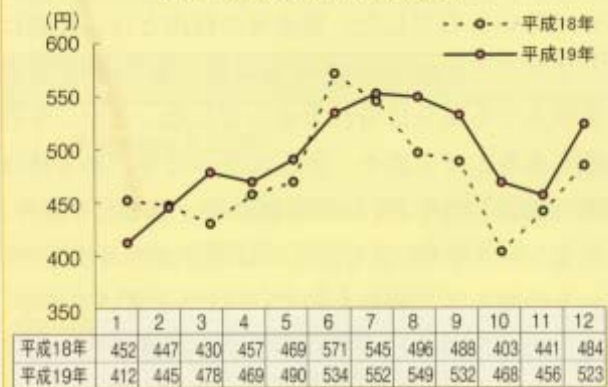
牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



牛枝肉相場・乳用種去勢・B-2(東京市場)



豚枝肉相場(全農新潟県本部)



編集後記

昨今の配合飼料価格の高騰及び原油高による諸材料の値上がりにより畜産経営は、危機的な状況にたたわれています。ある人は「平成の畜産危機」と称して危機感を募らせています。畜産農家の日々の努力を超える高波が押し寄せている、そんな感じがしています。

このような状況下にあって、国は「畜産・酪農家の経営に対する緊急対策」を打ち出し経営安定に本腰を入れております。これはBSE発生以来の大規模な対策と言ってよいでしょう。

ただし、こうした対策は、あくまでも目先1、2年のことで一過性のもと理解しなければなりません。自己の経営の弱点、あるいは改善すべき点を洗い出し、早急に体質を強化する必要があります。

当協会として平成20年度は、配合飼料価格の高騰等に打ち勝つ経営体の育成指導、経営安定対策の強化、加えて安全・安心な畜産物の生産の推進等を柱にメリハリのある事業計画と予算の作成をしております。
[鈴木 記]